

ツニ裂テ、内子見ハル、其皮厚キ故、甜瓜ヲ四ツニ切リタル形ニ似タリ、大抵集解説ク所ニ近シ、然レドモ的當ニ非ズ、モクコクハ四時常ニ紅葉ヲ雜ユ、故ニ古人西京雜記ノ葉一青一赤望之斑駁如錦繡ノ文ニ因テ丹青樹トス、然ドモ述異記ニ上有五色葉、俗謂之五采樹ト云時ハ、丹青樹ニハ當リガタシ、

金絲桃

〔大和本草<sup>十二</sup>花<sup>木</sup>〕金絲桃<sup>キヤウキ</sup> 葉ハ柳ニ似テ末マルシ、花ハ桃ニ似テ黃ナリ、蕊ハ黃ニシテ長ク絲ノ如シ、梅雨ノ中ニ花開ク、葉冬不枯、高二三尺、諸書ニ出タリ、春分ニワカチウヘ、又正月ニサシテモ生ズ、三才圖繪、如桃而心有黃鬚、鋪散花外、若金絲然、亦根下劈開分種、畫譜所言亦同、

〔剪花翁傳<sup>前編三月</sup>開花〕金絲桃<sup>びやう</sup> 花一重色黃、開花五月、梅天より半月計もあり、方半陰、地半濕土回込、肥大便寒中に入ベシ、株九月中に分植ベシ、櫻春ひがんに枝三寸許に剪テ、少し斜に插テ、即時に日覆すベシ、後に指頭をもて、土の乾濕を壓テ試るベシ、指形の速にふかく入ものは可也、堅クシテ、指點なきものは既に乾ける也、此時水を澆ぐベシ、後に又乾堅なる時は淡小便を灌ぐベシ、寒中には大便を入ベシ、葉は柳に似テ、枝は節色也、葉長クして丸からず、積氣を治するに妙なりといヘリ、剪花の時は日の出るまでによし、其後は花いたむなり、升水は切口より上に盥をかけて插をくベシ、

沙羅樹

〔大和本草<sup>十二</sup>雜木〕沙羅樹 大坂ナドニアリ、葉ハ榎又柿ニ似テ、花白シ、朝ニ開キユウベニシボム、花大ナリ、夏花サク、是真ニ沙羅樹ナリ、未詳、潛確類書ニ沙羅樹ヲノセタリ、

〔松屋筆記<sup>六十二</sup>〕娑羅樹

日下舊聞二十三の卷、郊垌五臥佛寺の條に、娑羅不莖凡草、不止惡禽、<sup>西陽雜俎</sup> 娑羅花苞大如拳、葉似枇杷葉、凡二十餘葉、相沓捧苞、類桐花、一簇三十餘朵、經月方謝、<sup>茅亭客話</sup> 沙羅者、其木葉如海桐、又似楊梅花、紅白色、春夏間開、<sup>吳船</sup> 沙羅、外國之交讓木也、葉似楮皮、如玉蘭、色葱白、最潔、鳥不棲、虫不生、子

梅花、紅白色、春夏間開、<sup>吳船</sup> 沙羅、外國之交讓木也、葉似楮皮、如玉蘭、色葱白、最潔、鳥不棲、虫不生、子